

第84号 「組織と個人」

令和2年8月20日

組織（集団）を構成しているのは一人一人の人間です。自分は一人で生きていると思っている人も、必ず何らかの集団に属しています。学校という一つの組織の中にも、部活動、クラス、学年など、大小様々な集団があります。その集団の中で人は関わり合い、関わり合いの中で社会性や人間性を成長させていきます。人は一人では生きていけないのです。

現代社会は、核家族化による家庭内のコミュニケーション不足、SNSなどによる目と目で向き合わないコミュニケーションの増加、さらには機械化や人工知能の進化によって一人でできることが増えつつあるなど、人との関係が希薄になっていると言われています。同時に、私は「自分さえ」と考えてしまう人が増えてきているような気がしてなりません。

「自分さえ良ければ」と考える人が存在します。周りの迷惑を顧みず、自分さえ楽しければ良い、自分さえ安全であれば良いなどと考える人です。ある意味、人間の素直な気持ちを表しているとも思いますが、人は様々な関わりの中で特定の人や友達・仲間を大切にしたいという感情が芽生え、思いやりの心を育みます。その思いやりの心を、特定の人にだけではなく、すべての人、すべての命あるものに向けることが、心あたたまる社会の形成につながると思います。

一方で、「自分さえ我慢すれば」と考える人もいます。周りのことを気遣い、自分よりも周りの人を優先する優しい人なのかもしれません。しかし、自分の気持ちに蓋をしてしまい、自分らしく生きているとは言えないのではないかと思います。自己犠牲の精神は日本人の美德と言われることもあり、時には必要かもしれませんが、それだけではその人本来の生き方とは言えないと思います。

人は、組織が上手く機能しなくなると、あの人が悪い、環境が悪いなどと周りの責任にしてしまいがちです。しかし、それでは組織も自分も成長しません。自分が変わるべき部分はないか、自分はどう行動すべきなど、まずは自分に目を向けることが大切ではないでしょうか。自分を変えることは勇気がいることですが、自分の視点を変えることによって、周りに対する新たな発見もあるし、自分自身の新たな発見につながることもあります。一人一人が自分さえと考えるのではなく、自分に何ができるのかを模索し続けることが、自分と組織を成長させることにつながると思います。

自分の所属する組織が管理型組織ではなく自律型組織となるよう、一人一人が強く意識することがますます求められる社会になっていると感じます。